

下関女子短期大学 桜山会だより

第 7 号
昭和 63 年 9 月 1 日

発行
下関女子短期大学
桜 山 会

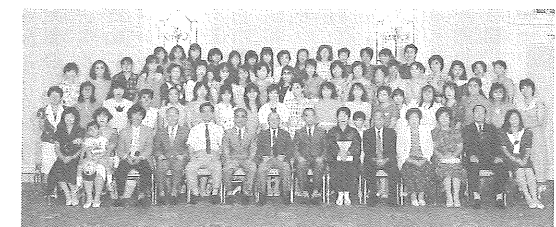
☎(0832)-23-0338(代)

祝 桜山会発足二十五周年

～ 桜山会の発展を願って ～

桜山会会長 山中 由美子

下関女子短期大学の同窓会として桜山会が発足して二十五周年を迎え、もうこんなに年月が過ぎてしまったのかしらというのが実感ですが、第一期生として発足当時から桜山会とかかわっております。私にとって本当に感無量でございます。発足にあたって会則作りをし、名称を桜山の地名をとって桜山会と名づけて第一歩を踏み出し、卒業後も母校に残った私は軽い気持ちでお世話を引き受けてしまい、



今日まで桜山会のご縁を続けてまいりました。わずかに三十二名の会員から、今日の四千名の会員を有するまで母校の発展と共に桜山会も発展してまいりまし

た。年一度の総会開催や桜山会便りの発行、入会式、卒業生への記念品贈呈、母校の記念行事への協力等々、先生方のご協力、役員の努力によって続けてまいりました。そして二十五周年を迎え、念願でありました関西支部が誕生いたしました。大阪、京都、兵庫、奈良の二府二県に八十余名の会員がおりますので、関西支部として発足、年一度支部会が開催されることになりました。関西支部発足に際しましてはご尽力いただいた方々に心から御礼申し上げます。この度の関西支部会に私も出席させていただきましたが故郷を離れ関西に嫁した方々、就職された方々が、大都会の中で下関女子短大を卒業した仲間として集まり、懐かしい学生時代のことや、ご主人や子供のこと、苦勞された話等々お話しされている様子は感激いたしました。特に母校での思い出や現在の様子が花が咲き、話は尽きないようでした。このように桜山会関西支部会が近くに在住の方々にとって楽しい一日となればと願っております。出来ずならば関東支部、九州支部が発足できれば大変素晴らしいことではないかと

昭和62年度 桜山会決算報告書

(昭和62年4月1日～昭和63年3月31日)

科 目	収入(円)	支出(円)	付 記
前年度繰り越し金	38,501		
62年度運営費	500,000		5,000円×100人
62年度基本金	200,000	200,000	2,000円×100人 定期預金
預 金 利 子	74,003		
通 信 費		543,800	はがき、切手等
総 会 費		80,915	第24回 桜山会総会
活 動 費		225,990	役員会、交通費等
印 刷 費		51,000	桜山会だより、案内状
慶 弔 費		41,320	祝電、弔電
事 務 費		100,530	コンピューター導入のため
卒 業 記 念 品		76,500	62年度卒 第25回入会者
基 本 金 より	500,000		運営費不足のため
来年度繰り越し		△ 7,551	
合 計	1,312,504	1,312,504	

総会の会計報告で、運営費が不足したため、基本金より運営費の

方へまわすことを全員一致で承認されました。

新役員の紹介

・本部
会 長 山中由美子
副会長 原田 弘子・中島 優子
会 計 稲田 縁・真鍋久美子

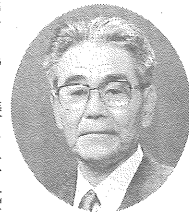
・関西支部
支部長 角石 泰子
副支部長 大石 美江
会 計 野口 和代
監 査 秋本 幸子

思っております。これからももっと親睦の輪が広がって行きまうよう祈念いたしております。桜山会が母校の発展と共に益々発展してまいりますよう、そして会員の皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

監 査 古谷 和子・樋口 和枝
常 任 熊須千代子
幹 事 中島 房江・中島 美保
横山 順子・八道富美子
池田 結香・相良 裕香
池田 悦子
顧問 高井 徹・佐々木具慶
中原 政枝

学長就任のご挨拶

学 長 高 井 徹



桜山会の皆様にはお元気で過ごしのことと存じ、衷心よりお慶び申し上げます。私は前学長武田道夫教授のあとを受け継ぎ、昭和六十三年四月一日就任いたしました。申すまでもなく、創立者河野タカ先生の崇高な教育理念を基幹とする大学教育により、すでに四千弱に及ぶ卒業者を社会に輩出され、輝かしい学園史をもつ本学の学長としてその重責を反芻しつつ、早や六ヶ月を過ぎてまいりました。幸にも西村理事長先生を核とする理事会、教授会および事務局諸先生の温かいご理解により、入学式および諸関連行事、学生募集に関する業務、その他学内行事等々の学務を消化してまいりました。また七月には新役員としてご任命頂きました本会の第二十五会総会におきまして山中会長のもとでその席を全うすることが出来ました。さらに八月七日には以来思慮しておりました河野タカ先生の墓前就任報告も済ませ、ようやく本学の

一員として洋々たる瀟溟に出帆した気持ちで、覚悟を新たにしているところであります。ところで、私は山口県柳井市の山村に産まれ幼少から旧制中学まで勉強は二の次で、小川のハヤやドンコ獲りを主な遊びとして育ち、ついに水棲生物相手の道を歩んでまいりました。昭和二十二年、ソ連ボルガ中流域での抑留生活を終えて帰国するや直ちに母校水産大学校増殖学科に籍を得て、ウナギで有名な松井魁教授（前宇部短大学長）と共に魚類の生活史、海洋資源生物学、水族増殖学分野を専攻しました。この間、昭和五十六年四月日本産ウナギの葉形幼生の発見、カナダ東海岸湖上ウナギの資源調査、南水洋鯨の生殖腺調査など思い出深い研究や調査をつづけ、昭和六十二年三月、海洋開発に関するマリントクノ構想や利水に関する紀の川・阿武川魚族資源調査を最後に定年退官し、ついで一年間秋女子短大の客員教授として秋湾の海洋生物の調査に当たってきました。このようにこれまで主に男子学生を相手とした大学生活であり、また専攻分野が偏重して、所謂狭視野性に属する人物でありますので、この重職に当ることを些か苦慮しましたが、先達諸賢のご高見と大学はその構成員がそれぞれの専門分野を尊重し、共々深め、その総

力によって維持され、発展するものとの信念をもとにお引受いたしました。このことは、昭和三十五年でしたか水産大学校のある儀式で受付けをしていた私の折れていた背広の襟を直し、糸屑を取り、微笑をもって去られた黒い式服を召した婦人が、本学の河野先生であつたことを思い出し、何か本学に勤めるご縁があつたように思われてなりません。さて、昭和六十七年以降十八才人口の急激な減少期を控えて本学は全学挙げて諸対策を検討しておりますが、当面する昭和六十四年度入試では調査書重視を基本として特別推薦入学制度の新設、国語一科目入試制および保育科の音楽実技試験の削除等の実施、また昭和六十四年度を中途に家政科を生活科学科と改称、これに食物栄養専攻と、生活経済および生活デザインのコースを配した生活科学専攻を置く科名変更を進め、現在文部省に申請中であり、更に学生募集に関する対策事業には旧倍の努力を傾注しているところであります。一方、学内の教育・研究環境の整備も諸懸案が逐次進められておりますが、卒業論文に相当するゼミナールや学生参加の共同研究の醸成、本学研究紀要の充実等々について教授会を核として具体策を図かり、学際的にも魅力ある学

関西支部を引き受けて

支部長 角石 泰子

園の完成に一九となつて邁進し、皆様の母校発展の念願に沿うべく微力を盡したいと思っております。皆様におかれまして、とりわけ学生募集に関し有形無形のご支援

桜山会の皆様には、それぞれにご活躍されていることと存じます。会が発足して二十五周年を迎えるとのこと日の足つ早さに今更ながら、年を重ねたことにびつくり致しております。



昨年より準備を始めた関西支部も六月二十六日に第一回を大阪で開催、佐々木先生、山中会長のご出席を頂き、会員十二名で無事終えることが出来ました。佐々木先生より故タカ学長の最期、学園の近況をお聞かせ下さ

を賜われますようお願い申し上げます。最後に皆様のご健康とご発展を祈念し、忝に粗辞ながら就任のご挨拶いたします。

り母校が益々発展していることを嬉しく思いました。

関西方面にも多数の方がいらっしゃいますが、若い方の参加がなかったのが残念でした。

子供さんの小さい間は、なかなか出席されにくいものですので、これから少しずつ出席者も多くなれることを願っております。

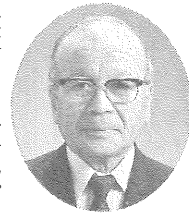
これからどの様な関西支部を運営して行けば良いか皆様方のお知恵を拝借致したいので、どうぞお知らせ下さいませ。

なお来年は、京都で開催予定ですので、お近くの方は是非ご出席下さいませようしくお願いいたします。

私、関西支部を引き受けました。が誠に未熟者でございます。会員各位のご協力を頂きまして支部長を任期まで努めさせて頂きたく、ここに紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

美しい日本の着物

理事長 西村 清



つい最近のことですが、九月四日(日)のNHK特集番組で「いにしえの色」と題されたテレビを見ることができました。日本の古代からの衣食住にかかわる生活の中で、日本人の先祖が遠い昔の上代・中世・近世から現代にかけて、色彩に対する鋭敏な感覚をどのように工夫し創造して、偉大な文化的遺産として今日に伝えて来たかという素晴らしいものでありました。

そのすべてに私自身が歴史のページ一ページに多大な感動を覚えたのであります。その時代時代における人々の苦心と成果が「いにしえの色」として、日本人の格調の高い色彩の感覚―それはとりもなおさず「日本人の心」ということの核心に触れたものでありました。

番組が段々と進んでいく中で着物の色付けに魂を傾けておられる方々の非常な苦心が順次放映されて来ました。その方々は「いにしえの色」をいかにして現代に再現するかということであり、そのために染色の原料を日本中の山野に自生する草木の葉や果実等を採集して染色の原料となるかどうかを試みながら、「いにしえの色」の再生と創造に生涯をかけられ、一本一本、一束一束の絹糸を染色されながら織られていく過

を注意深く拝見し、その苦心と努力の並大ででないことに驚くと同時に、「いにしえの色」一すじにかけられている方々の尊い姿に心から打たれました。

着物は主として女性が愛用することになります。事を考えます時、本当に日本の女性は幸せであるという感を深うしたものであります。さて、目を現代の社会に移す時国際的に日本の地位は先ず経済大国となり、世界の経済は日々日本の円とアメリカのドルによつて国際市場は支配されていると言つても過言ではありません。

この様な国際状況の中にあつて「いにしえの色」を求めて止まない方々と共に「いにしえの日本女性の心」を求めて、日常生活の上に、将又国際化社会の中の日本人として日本女性として、古代よりの誇りと伝統を今日の国際社会によりよく果たすことこそ、本学園の創立者、故河野タカ先生の建学の精神である事を考えさせられる

のであります。

桜山会会員の皆さん、河野タカ先生の「いにしえの女性」をいかにして国際社会に生かすかが皆さんに荷せられた尊い使命であると感じました。

クラス会だより

―食物栄養専攻第三期生―
私達第三期卒業生は、卒業して十五年目に第一回のクラス会を催し五年毎にと決め、二十年目に第二回を行い、一、二回共下関で開催しましたので、今回は二十二年目にして神戸で開催致しました。関西で開くのは始めてでしたが八人の集いになり、二十二年振りにお会いすることが出来たと大喜びでした。

昔話しに花が咲き、又近況を知らせあい、これからも長くクラス会を続けることで一致、今回より二年毎にと決め会を締めくくりました。

次回は、山口県小郡で六十五年の八月第三日曜に予定していますので第三期卒業生の皆様住所変更されましたら桜山会又は、友人にお知らせ下さい。

第四回クラス会の世話役は、梅田(旧・竹内)さんが引き受けて下さいましたのでよろしく。

思うのであります。美しい日本の着物は、それ自体が美しい日本の女性の心であることを讃美して、皆さん方のご多幸を切にお祈りいたしまして稿を終えます。

―家政科第十六期生―
六年ほど前から二年毎に行われている私達の同窓会も此の度で三度目になりました。いつもは秋ごろ行われていたこの会を今回は春に行ない場所も北九州の小倉に移して見ました。同窓会当日は(五月二十三日)は生憎の雨で子連れの出席者にとつてはちょつたり大変な外出になってしまいました。私達の恩師である中原政枝先生は幾日前からお体の具合が悪く残念ながら当日お会いする事は出来ませんでした。久々に会った皆の顔懐かしさでいっぱいでした。中原先生がいられしやれないと聞き少しがっかりの声もありましたがその分友達ばかりと言うことで和気合々、賑やかでうるさいくらいでした。おかげで幹事である私は進行係をせずに済みましたが。短大を卒業してもう十年近くなるのにあの頃のお昼休みを思い出させるような楽しい一時でした。あれから十年、半数以上は、すでに結婚し子供も一人二人といふ人が多く、子供を連れて来ている人は子供に食事をさせながら、おいたをする子をしかりながら、自分はおしやべりに花を咲かせていました。あつと言う間に時間が過ぎまだまだ話し足りない気持ちを残してお開きになりました。「又、会おうね。」の言葉を最後にそれぞれ帰って行きました。



☆ 63.5.23 小倉「紅葉」にて ☆

編集部より

おことわり

本年度発行予定の桜山会誌(会員名簿)は、資金不足の為、今年度は見合わせることに致しました。紙面を借りましてお詫びいたします。



「二十年目の顔」に 再会できたよろこび

食物栄養専攻第六期生

橘 口 修 子

いつかきつと元気になったら、ぜひ出席したいと、思っておりまして桜山会に、今年卒業して二十一年目窓の樋口和枝様の強い勧めもあって、実現できました。

私がこの会に出席できたことをこんなに興奮し、こんなに感謝しているのは、わけがあります。

今から八年前、三人目の子供が満一才になった夏、健康にだけは自身のありました私に、思いもかけない大きな病気が突然襲いました。入院、手術と、家族や友人達までも、巻き込んで、たいへんな戦いだったと今つくづく思います。たくさんの方の励ましのおかげで、何年も前から出席したいと願っておりまして桜山会に出席でき、二年間をすごした学園や、寮そして何より懐しくたくさんの方友に逢う事ができました。二十年間の歲月はまるでなかったかの様に、卒業した次の日に友達に逢えた様で、もう一秒の時間も、惜くおしゃべりしました。この八年間に、こんなに充実して、こんなに楽しい時間を、過ごしたことは、ありませんでした。

桜山会同窓生の皆様、来年は、無理してでも時間を作って、ぜひ出席して下さい。こんなすてきな思い出を、桜山会に出席した私達だけであじわうのは、あまりにももったいない気がします。

在学中、帰省のたびに乗り降りした下関駅からは、随分離れた場所にある新幹線新下関駅というのに、降り立った時は、やたらに興奮しました。仲のよかった学友二人と一緒に二十年振りに桜山の短大へ、直接向いました。

二十年前のあの頃と、まったく変わっていないものもあれば、すっかり変わってしまったものもある途中のけしきを、うら島太郎の心境と、笑いながら到着した校門前。今回の大きな目的の一つであった校舎を前にして、やっぱり感激のあまり、頬を流れるものがありました。並んで立った二人の学友も同じ心境だったと思います。その学友の顔を、涙の顔で、その時は、見る事ができませんでした。そして、あんなに窮屈だと思つて、飛び出してしまつた寮も、今は、やたらに懐しく、夏休みで学生誰一人いないこの明美寮が、私達の青春の全てを知っている様で初恋の人にも、出逢つた様な、不思議な気持でした。

誰もいない校庭と、校舎に、別れを告げて桜山会々々のシーモ

ルパレスへ。

ここでは、やっぱり最高の再会がありました。二十年ぶりに見る学友は、四十才になった事を、除けば、昔のまま。それぞれに悩んだり苦しい思いをした卒業してから二十年を、皆忘れてただただ再会を抱き合はんばかりに、大げさに喜びあいました。

「あなたに逢えて、うれしかった」「無理して出てきて、よかった」誰もが、そう言いながら、又きつと逢える事を約束しながら、それぞれ、家族や仕事仲間の待つ我が家へと、帰って行きました。

今回、この会に出席して、よかったと思っているのは私一人ではありません。会に出席した八十名近い全員が感じた事実なのです。特に出席して懐しさを、楽しさを何倍にもしてくれたのは、クラスの懐しい顔にたくさん逢えたことだと、思います。

次回、どのクラスも全員誘いあつて、お出かけ下さい。きつとすばらしい旧友との再会があると思えます。

そして、お顔を存じあげた先生方が、お元気で出席下さった事もとてもうれしかったです。最後になりましたが、この会でこんなすてきな出逢いを、作って下さいました桜山会々々長の山中様初め役員の方々に深くお礼を申し

上げます。

ほんとうにすばらしい一日をありがとうございました。

退任・新任の先生方

〈退任〉	
一般教育 助教	岡田 貞義
一般教育 助教	小野 臣一
一般教育 教授	小島 良夫
音楽科 助教	友村 保之
図書館長 教授	上田 孝治
教務部長 教授	厚 正喜
寮 監	山下 静江
寮監助手補	善久加代子
御指導有り難うございました。	

校舎を改造して・・・

今春より、正門を入る右側の校舎の講義室を改造して学生ホールが出来ました。雰囲気明るくなつたようで、学生達も休み時間になるとのんびりとしたひとときをホールで過ごしているようです。皆さんも学校の近くまで来られた時はちょっとのぞいてみてはいかがでしょう？



〈新任〉

学 長	教 授	高井 徹
一般教育 講師	市来 恵子	
家政科 助教	皆川 重男	
家政科 講師	溝口 益子	
保育科 講師	中村 時雄	
音楽科 講師	福山 哲生	
音楽科 講師	寺下 裕子	
図書館長 教授	中野 恵二	
寮 母	末岡 房恵	
寮監助手補	池田 悦子	
へ亡くなられた先生方へ		
有賀 静登	昭和六十二年 七月	
秋野 豊太	昭和六十二年 三月	
御冥福をお祈りいたします。		

学校行事

- ・桜山祭
十一月五日～六日
- ・音楽科定期演奏会
十二月十四日（十八時半）
小倉市民会館
- ・チャリティーショー
十二月十八日
- ・第一回（十三時）
第二回（十五時）
シーモール一階スクエア
- ・桜山会入会式
二月二十一日 本学
- ・音楽科卒業演奏会
三月十八日（十四時）
下関市民会館 中ホール